

東京工業大学 産学協働プログラム「人生100 年時代の都市・インフラ学」
第2期：人生100 年時代の6つの豊かなライフシーン

チーム⑤ 自然とのつながり

中間発表資料

2021年5月25日

座長：中尾 俊幸（株式会社アール・アイ・エー）

【ワークショップの経過】

第1回 (2021年2月25日 オンライン)

**自然とのつながりが「豊か」とは
ということか**

第2回 (2021年3月15日 オンライン)

**人生100年時代の
豊かな自然とのつながりとは**

第3回 (2021年4月26日 ハイブリッド)

**自然とのつながりの
変化を支える都市・インフラとは**

【参加メンバー】

名 前	所 属
鼎 信次郎	東京工業大学
中尾 俊幸(※)	アール・アイ・エー
赤尾 欽正	大林組
赤羽 拓之	戸田建設
木村 暁彦	西松建設
河野 匡志	日建設計
杉岡 正敏	鹿島建設
須田 英男	三井不動産
津金 榮則	竹中工務店
長澤 徹	東日本旅客鉄道
根津 登志之	東急不動産

(※) 座長

メンバー：敬称略・五十音順

コーディネート： 坂村特任助教

参加学生：赤塚さん、東山さん（鼎研究室）

【3回のワークショップでの到達点】

- ① 人々が豊かさを感じる自然はさまざまあるが、いったん、都市インフラ学の観点で生活に**身近な自然や都心部の自然をターゲット**に据える
- ② 道路や水辺・公園といった**公共物**が開発や市民農園のような**民間敷地**かを問わず、**議論する**
- ③ 人生100年時代を想像し、幅広い世代や趣向を意識しつつ、自然に求める「癒し」や「非日常性」などの豊かさを感じる感性を研ぎ澄ませて、あるべき姿を追求・デザインする

【今後のワークショップでの展開イメージ(案)】

- ① 無理矢理、**具体的な場所を3カ所程度（性質の異なるもの）を設定**する。
- ② 各々の場所において、**これまでの議論で考えた内容を深掘り**する。
- ③ 人生100年時代の**豊かさにふさわしい理想像を絵で表現**する。
- ④ 実現に向けたハードルや社会のあるべき変化を議論する。（バックキャスト）

これらを展開しながら考える・・・

【第1回WSでの主な議論】

豊かさを
感じる自然

近所の公園
や河川での
体験学習

下水道の
トンネル
探検

夏山ス
キー場で
の昼寝



子供のころ
の体験

北アルプ
ス雄大な
自然

用水路の
水の冷た
さ

住宅地にある緑
地や水辺

家族と一緒に
行く近所の公園。
斜面・芝生

十日町（雪国）
でのゼンマイな
ど山菜取り。四
季の色のコント
ラスト。

アメリカ
の広大な
田舎風景

稲佐山
からの
夜景

夏山キャン
プ場の朝

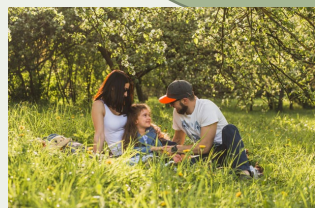
近所の
緑道の
自然・
噴水

東京
での
霜柱

大人になったの体験
（子供の頃を
思い出すを含む）

身近な自然

遠い自然・大自然



<豊かさをを感じる自然の風景の共通点>

「豊かさって大人になると感じられにくくなるのかも。」

「地形の起伏を感じられること」「自然を感じられる安心（人が離れている、何度か行ったことがある）できる状態、無防備でも大丈夫」

「子どもが自然に身体を通して触れ合う」「いまはカエルの卵をふれられない」「近所にある緑地」

「人の手がきっちり入っていない部分がある」「自然の厳しさ」「自然って色々な種類がある。管理の入っていないトンネルに自然を感じる」

「豊かさには種類の多さや選択肢の多さがあるのでは。色々なことを感じられる」

「雪をきれいと感じる舞台設定。自然を感じられる余白」「大地と一体となる感覚」「身近な自然と遠くの大自然」

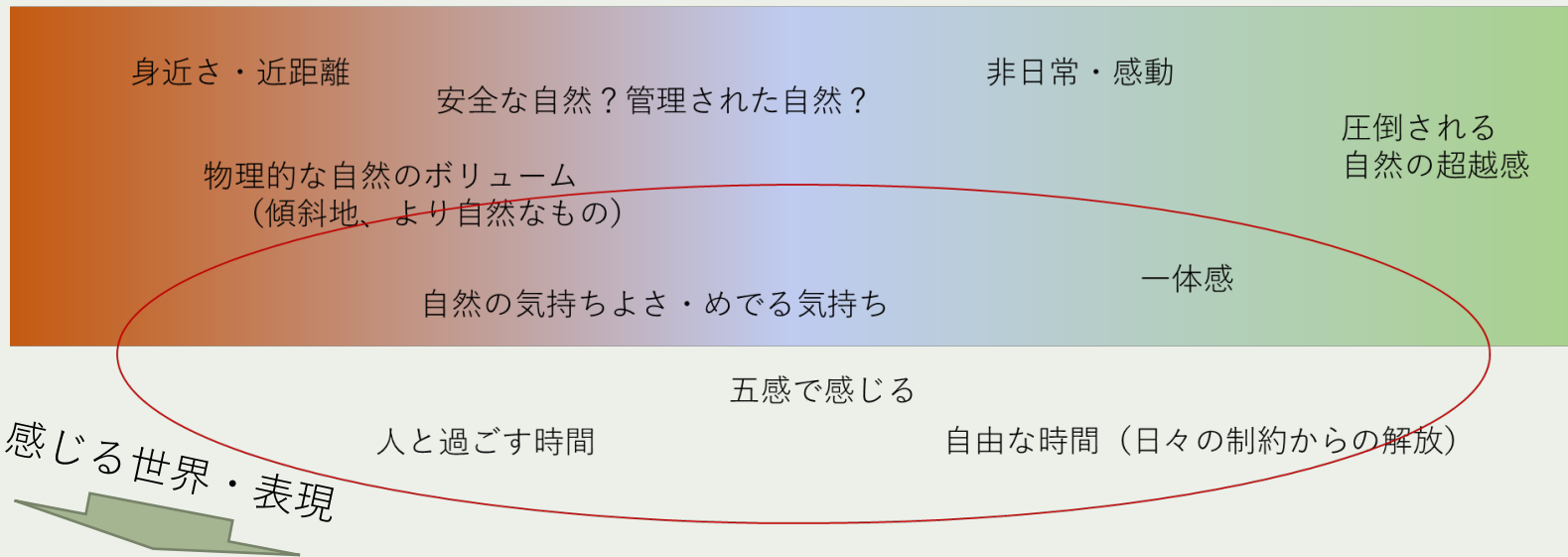
【第2回WSでの主な議論】

都市の中の自然

田舎の自然

超自然・大自然

第1回WS
意見の
マッピング
(中尾作成)



豊かさの要素・要件
物質豊かさ⇔精神的豊かさ

日常に感じる豊かさ



非日常での豊かさ

背景にあるもの

- ・五感で感じる状態
- ・自然を豊かと感じる、自身の状態（普段自然を感じていないゆえ）
- ・幼少体験の振り返り

100年時代への応用

- ・人間内部の変化に対する様々な選択肢の用意
- ・日常にどう非日常を持ち込むか
- ・自然を管理する程度が大事

身近な日常の中の非日常

「自然」の検討対象の
幅広さ

100年のライフ
ステージの多様さ

100年時代の
社会インフラとしての自然

管理しすぎると非日常にならない
⇒保全やコントロールの程度

「緑視率」など五感で感じる定量定義

【第3回WSでの主な議論】

人生100年時代に向けて創出すべき自然とのつながりのシーン

ややパブリックなもの

公園・河川沿い空地・水路ネットワーク・街路樹・人の手が加わらない自然・都市の中の余白的な場所

ややプライベートなもの

都市農業・家庭菜園・公園の中の菜園・里山・個人住宅の緑化・オフィスランドスケープ

【自然とのつながりシーンを創出する議論の背景】

- ・身近な日常の中の非日常性と多様性（＝自然という癒しに触れる時間の獲得）
- ・多少の手間は厭わない、画一的なものではなくそれぞれに特徴が必要。
- ・行政／民間で管理ではなく、みんなで使うという概念

議論したキーワード

使われていない公園

手間がかかることが大事

AI・機械との棲み分け

⇒人間らしい自然との触れ合い

斜めの芝生地

縦割り管理で人が入りにくい河川敷

甲州街道のような剪定

しない街路樹

公園を共園にする

行方不明土地

護岸を崩す（自然に戻す）

【今後の議論展開に向けたメンバー提案】（河野氏より）

